

町の話

より良い町づくりを目指して

古紙類・古衣類の回収事業スタート

— 金丸町 —

自治会（山本会長）の先導と有志の協力を得て、古紙類・古衣類等の回収事業が本年四月に開始されました。芳賀地区内でも、すでに行われている自治会や子供会があり、それについて色々と話を聞いて参考にさせてもらったそうです。

事業化にあたり、コンテナの入手から設置、コンテナ内の棚作りや鍵の設定など、たくさんの作業で町内有志の奉仕的な尽力を得られたと聞いています。公民館敷地の一角に設置されたコンテナには、町民がいつでも自由に、ルールに適合した古紙類・古衣類を納入できるのです。

丁寧な活用案内が全家庭に配られ、周知されたこともあって、上々の滑り出しのようです。回収された古紙や衣類等には、市から助成金

が支給される約束であり、その全額を積み立てて将来の公民館建替え費用の一部に役立てようと、町民の多くが賛同しているのです。

得られる金額は大きくはないでしょうが、前向きな町づくりに全町民が立ち上がる意味は大きいと思います。有益な資源の再活用とごみ減量化に役立つこの事業がより発展されるよ



市川 秀雄

う期待し、町外の方でも協賛いただければ有難いと思います。

芳賀地区の中でも小さい町であり、歴史も戦後からですが、赤城山に抱かれ、榛名山、妙義山も望める山里です。花木生産や造園業の多い美しい町が更に発展し、続くように、これからも皆で協力し合うことでしょう。

一粒の蒔かれし種を大切に育て咲かそう金丸の花

金丸町生涯学習奨励員

春夏秋冬

京都の盆行事「六道まいり」

高花台二丁目生涯学習奨励員 馬場 康夫

お盆が近づいてまいりましたが、筆者が学生時代を過ごした京都には、「六道まいり」という特異な盆行事があります。

8月7日から4日間、東山の「六道珍皇寺（ちんこうじ）」というお寺に、あの世から先祖の霊を迎えるために10万人以上もの人々が訪れるものです。

「六道まいり」は、まず高野槇（まき）や経木の「水塔婆」を買い求め、先祖名を記入してもらいます。それをお地藏さまの木箱に納め、槇の葉で水を注ぎ「水回向」をします。その後、本堂横にある「迎え鐘」をついてご先祖の精霊を迎え、霊が宿った槇を持ち帰って13日以降の盆花にします。

六道とは人が輪廻転生する六迷界のことですが、この寺は清水寺の麓にあった墓地・鳥辺野の入口に立地し、

死者はこの寺で引導を渡されたことから、あの世とこの世の境界・「六道の辻」といわれています。

境内にあるお堂には、閻魔大王像と小野篁（たかむら）の等身像が安置されています。小野篁は平安初期の学者で、昼は朝廷に仕え、夜はこの寺の井戸から閻魔庁に通っていたとのいい伝えがあります。

京都にはお地藏さまや小野篁にまつわる伝承や伝統行事が沢山あります。8月下旬には「地藏盆」や「六地藏巡り」で京都の町が賑わいます。



8月の主な行事予定

8月11日(土) 前橋花火大会(利根川湖畔・大渡橋南北河川緑地)
8月25日(土)・26日(土) 生涯学習フェスティバル(前橋プラザ元氣21)

